

「日々の理科」(第2836号) 2022,-5,12  
～ 春の小石川植物園 ～  
「すこやか ふれあいウォーキング(2)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーション研究所 研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

私は入口受付で「団体入場票」を記入し、入場料を支払うために、先行して待っていた。植物園の開園は午前9時だが、親子は学校から歩いて、9時20分ぐらいに続々と到着した。特に団体入場券のようなものはなく、退園しない限り、解散後も園内に残れるのが嬉しい。



小学校初めての遠足に、1年生の子どもたちはとても嬉しそうだった。どの子も、「たんけんボード」を肩にかけて、朝配布したウォーキングのカードを持っている。



最初に、武蔵野台地(白山舌状台地)の段丘崖を登る。広い舗装道だが、結構疲れる。この日は暑くも寒くもなく、絶好の遠足日和だった。



植物園研究棟前の大きな「ヒマラヤスギ」の樹の下を通る。このヒマラヤスギも、チェックポイントの一つなのだが、この時点では誰も気づいていなかった。



植物園名物のサクラ林の脇を通る。3月中旬～下旬には多くの花見客で賑わうが、今は静かだ。幸いこの日は他の学校団体も入っていないかった。



サクラ(ソメイヨシノ)には、小さな実がついていた。子どもたちは、普通のサクラにも実がつくことに驚いていた。「この実も、サクランボみたいに大きくなるの?」と聞かれたので、「サクランボのなるサクラは、ミザクラ(実桜)という種類で、このサクラはこの大きさなんだよ」と教えたら、「ふ〜ん」と、ちょっとがっかりしていた。